いかわっこ ぐるぐる 世界ツアー

氏名:橋本 和樹 学校名:神戸市立伊川谷小学校

担当教科: 特別支援学級 実践教科:生活単元学習

時間数:4時間 対象学年:1年生~6年生 人数:13人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

JICAネパール所長の佐久間潤氏から教えてもらった「風の人 土の人」という言葉が一番心に残っている。地域に新しい視点をもたらす「風の人」とその土地に根付いて受け継いでいく「土の人」が時間をかけて話し合い、支援の方法を探っていくという日本のODAの方針に感銘を受けた。また、ハヌマンドカ王宮の復興に取り組む多井忠嗣氏は「私たちは、新しい技術で復元するのではなく、時間をかけて調査し、できる限り当時の方法を利用しながらも、日本の技術を導入できる箇所を話し合いながら決めていく」と説明してくれた。相手を理解しようとする姿勢は、児童たちの日々の生活にも、教師における学級経営にも求められると感じた。

2. 授業実践

【1】テーマ・目標

- ①ネパールの文化に触れることで多文化共生の視点をもつこと
- ②安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること

【2】単元設定の理由

なかよし学級2組の児童は、学習進度に合わせて個別の課題を用意することで、「できた!分かった!」と実感できる一方、思いを友達に伝えたり、友達の意見に共感したりする機会は少ない。また、算数や 国語を中心に学習をしているため、国際理解につながる学習をした経験は、国旗のフラッシュカードを 活用する程度に限られていた。

6月には、大阪北部地震が発生した。登校時であり、周りの様子からも状況を捉えることができず、 自ら避難のための行動ができた児童はいなかった。そこで、発展途上国の諸問題に悩む人々の思いに共 感したり、世界で頻繁に起きている災害を知ったりすることが、日常的に安全や防災のための準備をし ようとする態度に繋がると考えた。

「いかわっこ ぐるぐる 世界ツアー」はネパールの遊び「Goat & Tiger」を基に作った、オリジナルのすごろく教材である。世界中をぐるぐると巡るように旅をしながら SDGs や世界で起こった災害を学べるように作った。

授業では、資料映像や写真を使うだけでなく、キャンディの味やスパイスの香りを楽しんだり、民族 衣装のクルタや手織りの布を手に取ったりする。本物に触れることで、五感を使ってネパールの文化を 体験できるようにし、興味・関心を高めたい。また、すごろくゲームを楽しむことで、1年生から6年 生までが一緒に活動できるようにする。クイズ大会ではホワイトボードや付箋紙を使い、自分の意見を 明確にすることで、意見交流を活性化させる。仲間と関わり合いながら知識と技能を身に付けることで、 本校の教育努力目標である、いきいきと かんがえ わをたいせつにする 姿を目指した。

【3】展開計画(全4時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	・学習の見通しをもつ。	①オリエンテーション ・映像資料を観て、学習の見通しをもつ。	パワーポイント 「世界の果てまでイッテ ネパール」
	・ネパールの文化に興味を もつ。	②ネパールの食べ物でお茶会をしよう・スパイスやミルクティの香り、キャンディの味を楽しむ。	・チャットパット材料 スパイスミックス スナック麺 ナッツミックス ・シナモンティ ・ジャスミンティ ・ホグプラムキャンディ
2	・すごろくゲームのルール を知る。	①「いかわっこ ぐるぐる 世界ツアー」 で遊ぼう・国旗を集めるゲームを通して、ルールや 駒の動き方を覚える。	・すごろくゲーム ・国旗ブロック
	・学習に課題をもつ。	②絵葉書から見つけよう ・絵葉書を見て、気付いたことや、疑問点 を出し合う。	・ネパールから児童に送 ったエアメール
3	・すごろくゲームのルール を確かめる。	 ①「いかわっこ ぐるぐる 世界ツアー」で遊ぼう ・国旗を集めるゲームを通して、ルールや駒の動き方を覚える。 ・4時の活動につなげるために、国旗ブロックと国旗カードを交換する事を知る。 ・色々な国を巡ろうとする意欲を高めるために、国旗カードの裏に GDP (国内総 	・すごろくゲーム ・国旗ブロック ・GDP 国旗カード
	・ネパールの文化を知る。	生産)を書いておく。 ②ネパールクイズ大会をしよう ・チームで関わり合いながら考える経験を 積む。	・パワーポイント
4	・すごろくゲームを通して、 SDGs の観点から世界の 諸問題を知る。また、世 界で起こっている災害に ついて知る。	①「いかわっこ ぐるぐる 世界ツアー」 で遊ぼう ・世界防災カードの学習に取り組む。	・パワーポイント ・すごろくゲーム ・世界防災カード
	・ローリングストックの観点から身近にできる防災の準備について意見を交換する。	②防災の準備をしよう ・家で取り組める防災について意見を交換 する。	







阪神淡路大震災の時も...



どんな進み方をしようかな



関わり合いながら学ぶ



みんなでぐるぐる世界をめぐろう





ローリングストックのお話



世界・防災カード



トイレットペーパーのないトイレ

3. 成果と課題

授業討議

授業は神戸市の中堅教員資質向上研修(8年次研修)の公開授業として行った。採用8年目の教員、総合教育センターの指導主事、特別支援学校のスパーアドバイザー、本校校長、JICAより三浦禎子氏が参観し、授業後には授業討議を行った。授業討議での意見を記載する。

- ○活動を仕組んだり、3人グループで活動したりしたことで、関わり合いが生まれた。
- ○6年生の総合的な学習でも取り上げられる内容だった。
- ○すごろくゲームは、背景を変えることで、地域版、神戸市版、日本版にすることで、遊び方や学び方が広がると思う。
- ○ゲームにしたことで、勝ち負けにこだわる子の本来の姿が見られた。児童がそのことに気付くことで、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)の実践にもつながった。
- △「世界防災カード」について、18個のカードを用意したが、内容が盛り込みすぎている。水のテーマだけに内容を絞った方が、子供たちに残る内容が増えただろう。
- △単元の導入でこのゲームに取り組み、カードの内容を1時間ごとに学習するような、長期的な学習で も良いと思われた。
- △ゲームの時間が20分だったことについては、長く感じた。振り返りの時間や防災学習の時間をその 分長くしてほしい。
- △3人の教師による複数指導で行なっていた。教師それぞれの役割をもっと明確することで、より活動が主体的で対話的なものになると思う。

児童の反応

後日書いた、児童の感想文を掲載する。感想はできるだけ児童が書いた通りに入力した。また、書いて表現することが苦手な児童には、聞き取りを行った。

- ・ぞうのかあどをとりました。ごみのことがかいてありました。
- ・ひこうきでアメリカやドイツやネパールへいったのがたのしかったです。テレビでネパールをみたのがたのしかったです。
- ・ぐるぐるゲームは、いつもとちがって、ひこうきをつかったからおもしろかったです。カードがとれなくて、くやしかったです。家でのそなえは、水20本、ちず、食べもの、ぼうし、ライト、お金、ねれるどうぐ、テント、ロープ、ぐんてです。
- いろいろな国でおこっていることがしれて、よかったです。ぎもんは、日本はどんなさいがいが起きている?ということです。それと、さいがいにそなえをしないといけないんだなと思いました。
- ・せかいにはいろいろなもんだいがあることがわかりました。いえでのそなえは、ペットボトルが12本ぐらいあって、水をスーパーにくみにいっています。1本なくなったら、くみにいっています。れいとうしょくひんがいっぱいあります。ひなんリュックがあります。
- ・ネパールや、ほかの国の問題や、さいがいの事を知りました。とくに、オーストラリアのウミガメが えさとまちがえて、ビニールを食べることにおどろきました。
- もし学校でじしんがおきたら、おかあさんとおとうさんがむかえにくるまでまっておくやくそくをしています。
- ・ネパールはたてものがすごくふるいから、よくできているんだなとおもいました。
- ・きれいなふくをきれてうれしかったです。
- ・ネパールのお金には、動物の絵がかいてあることを知りました。ネパールのさんぱつやさんは、とてもやすいのを知りました。
- サイコロをふって、たくさんの国へいくルールがおもしろかったです。
- ・じしんやさいがいがあって、のめる水がすくなくて、生きていくにはたいへんだとおもいました。

授業者所感

集団で話を聞く時、体の動きを止めて聞くことができるようになってきた。最後まで話が聞けるようになり、主体的に活動できることが増えた。特別支援学級で給食を食べる時には、完食が増えた。「みんなで目標を達成しよう」とする意識が高まっているようである。また、最後まで粘り強く学習に取り組めるようになった。それは、一緒に学んでいる、高学年のお兄さん、お姉さんの姿がお手本となっていたからである。今回の授業で仲間と学ぶ楽しさを知ったことが、学校生活全般の成長に繋がった。

高学年の児童は国旗カードで互いにクイズを出し合って遊ぶようになった。低学年の児童は、国旗が好きになり、休み時間になると自由帳に国旗の絵を描いて楽しむようになった。雨の日には、「誰かが転ぶと危ないから」と、学校中の傘立てにある傘の持ち手を壁側に向けたり、脱いだ靴のかかとをピタッと揃えたりするなど、安全に関する意識が高まった。また、清掃活動や奉仕作業に積極的に取り組む姿が 1 学期以上に見られた。外国語活動「Who is my hero?」の時間には、世界の山々の登頂を目指すコメディアンを「She is challenger.」と紹介した。また、海外文化を紹介するバラエティ番組を好んで観るようになったようである。

苦労した点

教材づくりが最も苦労した。その理由は、児童の特性、年齢が一人一人異なるからである。さらに、内容も「SDGs と防災」をテーマに、日々の生活に還元できる内容にしなくてはいけない。資料を集めたり、防災をテーマにした研修会に参加したりした。また、発展途上国にあらゆる支援を行なっている NGO である、日本国際民間協力会の大豊重盛氏に授業内容を相談したこともあった。授業づくりまでに数多くの時間を費やし、作った授業であった。

改善点

全ての授業で3名の教諭による複数指導で授業を行った。それぞれの教諭の役割分担をよりはっきりさせることで、授業がさらに充実したものになったであろう。今回は4時間の単元計画で行ったため、世界の問題や災害について広く浅く知ることとなった。機会がある度に、児童がより詳しく知る時間があれば、より充実した学習になることと思う。

今後の取組

ゲームや遊びの要素を学習に取り入れることで、児童が一つになって授業に参加することができた。今回作ったゲームは、それぞれの学年での学習でも使えるものだと思う。また、防災学習だけでなく、地域の学習や県の学習など、社会科や総合的な学習の時間にも使えるものである。今回は教師が製作したが、マスやお題を児童が作ると、より幅が広がるだろう。昨年度から OJT 推進の校務分掌を担当することで、先輩教員と若手教員をつなぐ取組を企画している。本研修もその一つとして取り組めた。PDCAサイクルで授業づくりに取り組むことや、フィールドワークを大切にする姿勢を若手教員に伝え、来年度以降の研修に役立て次の世代の若手教員が JICA をはじめとする国際支援団体と連携して授業づくりをするきっかけとなることを願っている。

参考資料:

JICA 広報誌「mundi」 No. 32、 No. 33、 No. 38、 No. 39、 No. 42、 No. 49、 No. 50、 No. 56、 No. 57

Nicco 広報誌「Relief Action」

National Geographic.com

KOBE 防災ポータルサイト「備えとう?」

人と防災未来センター 展示資料

いかわっこ ぐるぐる 世界ツアーと世界防災カード

ルール

- 1、サイコロをふる
- 2、サイコロの数だけ、上下、左右、斜めに進む
- 3、国旗をとる 国旗とカードをこうかんする
- 4、チームのみんなで音読をする
- 5、次のチームとかわる
- 6、1~5を繰り返して、たくさんの国へ行く



バングラデシュ



バングラデシュでは、大雨のため、何度も 洪水が 起こっています。

みんなは, プールの学習で 着衣泳を しましたよ

もし、川や海でおぼれたら、空を見て、浮いて待 ちましょう。

合言葉は「ウイテマテ」です。





トイレ」と言います。 うんちを集めて、肥料にして、野菜を育てるための 特別なトイレです。

| | 前は,穴を掘って トイレをしていました。) 今は このトイレが あるので, 清潔だし, 野菜がたく さん とれるように なりました。

ネパール



ネパールでは、何度も地震が起きています。 レンガで できた家は、簡単に壊れてしまいます。 その度に、新しく家を建て直すのが、ネパールの 伝統です。

ネパールの伝統を 守りながら, より強い 建物を建 てる方法を、日本とネパールの人が 一緒になって 考えています。





橋本先生の お友達の, 田村絵果さんは, ボリビア 水泳を 教えています。

そして, オリンピックに 出るために, 練習を がん

日本は,スポーツでも 海外の人と 協力 します。 これを、JICAの 青年海外協力隊と 言います。



チリでもよく、地震が起こります。 そして、地震と一緒に、津波が発生します。 もし 津波が発生したら、とにかく 高い場所へ 逃

普段から、高い場所を 確認して おきましょう